

AUTUMN READS

第2号

“YOUNG ADULT”とは13～19歳の世代の人たちをさし、「若いおとな」という意味です。

高松市中央図書館では、YA（ワイエー）と呼んで、図書館員がこの世代の皆様にお勧めする本のリストをホームページに掲載したり、児童コーナーに特集コーナーを作ったりしています。色々なジャンルの本をご用意していますので、是非足を運んでみてください。

【お問合せ】高松市中央図書館 高松市昭和町一丁目2-20

電話 (087) 861-4501

<https://www.library.city.takamatsu.kagawa.jp/>

【AUTUMN READS (第2号)】

令和3年11月1日発行

高松市中央図書館YA選書会

こころ

10代の悩み・心の問題に効く本

『9月1日母からのバトン』

樹木 希林／著 内田 也哉子／著
ポプラ社 2019年8月
3714／キキ

生きづらさを抱えている子供たちに…

「死なないで、ね…どうか、生きてください…」

この言葉は、樹木希林さんが病床で呟いた言葉です。9月1日は、学校に行けない子供たちが大勢自殺してしまう日なのです。希林さんはトークセッションに参加し、この問題を意識し、母亡き後もバトンを受け継いだ娘が、不登校や命の問題を、対談を通して考えます。

部活

部活についてや、部活を主にした物語

『リマ・トゥジュ・リマ・

トゥジュ・トゥジュ』

梅津 有希子／文 片塩 広子／絵

講談社 2018年9月

913／コマ

短歌っておもしろい！

呪文のようなこのタイトルはマレーシア語で「5・7・5・7・7」という意味です。

マレーシアからの帰国子女の沙弥は、転入した中学校で周りになじもうと四苦八苦の日々。ある日「督促女王」と呼ばれる3年生に図書室へ呼び出されます。そして連れて行かれた公園で、いきなり短歌を詠んでみてと言われ咄嗟に詠むと…

進路

進路に関するデータや実用書、物語など

『「文系？」「理系？」に迷ったら読む本
A | 時代の進路の選び方』

竹内 薫 / 著

PHP研究所 2019年3月

002 / タケ

「これからは人間の仕事の半分がなくなる!？」

AIやIoTが発達している現在、仕事はどんどん変化しています。今ある職業も、もしかしたら10年後、20年後にはなくなっているかも？では、今からどう考えて、進路を決めていけばいいのでしょうか。

「文系」「理系」って？ 「好き」と「できる」で進路を選ぶなら？

これからを生き抜くための、ヒントになる一冊です。

知識

様々な知識に関する本

『イラストで読む奇想の画家たち』

杉全 美帆子／著

河出書房新社 2014年12月

7230/スキ

一度見れば妙に残る、「なんだこれは」なアート

少し不気味で不思議な絵画たち。よく分からないものほど、なんだか気になる。この本では、宮廷画家という依頼を受けて絵を描いていた画家など、7人の画家がどうしても描きたかった「奇」な作品たちを紹介しています。時代の代表作との比較や画家たちの生涯を知ると、その豊かな想像力に驚かされます。全ページフルカラーでイラスト付きエピソードも満載。

ノンフィクション

ノンフィクション・エッセーなど

『春になったら苺を摘みに』

梨木 香歩／著

新潮社 2002年2月

9146／ナシ

受け容れるということ。

著者が学生時代、英国で過ごした日々などをつづったエッセイです。

下宿先で、主人としてさまざまな事情を抱えた住人たちを温かく見守るウェスト夫人。その優しさは、自分の価値観の外にあるものを「理解はできないけれど受け容れる」ことについての気づきを与えてくれます。

物語

YA世代におすすめの物語

『重力ピエロ』

伊坂 幸太郎／著

新潮社 2003年4月

9136/イサ

おまえたちは俺に隠れて、 大事なことをやった。そうだろ？

仙台の街で起こる連続放火事件。そこには必ずグラフィックアートがあった。

主人公泉水と弟の春は半分血が繋がった兄弟。泉水の職場が放火事件にあった時、春はそれをなぜか事前に言い当ててみせた。事件の謎を解いていくほどに、家族という当たり前に存在するものの温かさが、じわりと心に滲んできます。

物語

YA世代におすすめの物語

『本好きの下剋上 第1部 [1]』

司書になるためには手段を選んでられません』

香月 美夜／著

TOブックス 2015年2月

9136／コウ

鳴かぬなら鳴かせてみせよう☆ホトトギス

Web発→書籍化→コミック化→アニメ化まで
いった文字通り「下剋上」を果たした本。

本のない異世界に転生した主人公が、好きなだけ本を読みたいという欲望に忠実に行動し、紙の材料から、ペン、インク、印刷機、はては、商品流通、商業出版まで再現してのけるという壮大な物語。あまりの成り上がりぶりに拍手喝采。すばらしい。主人公のマインは、ちいさくてかわいく、ちょっと外道な感じで、「人格高邁にして性格悪し」。